

2023 年度 事業計画書

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	2023 年度事業方針	1
事業計画		
1	総 会	3
2	役員会	3
3	調査及び研究（定款第 5 条 1 号）	3
4	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第 5 条 2 号）	4
5	学術誌及び学術図書の刊行（定款第 5 条 3 号）	6
6	人材の育成（定款第 5 条 4 号）	7
7	規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号）	11
8	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第 5 条 6 号）	12
9	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条 7 号）	14
10	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第 5 条 8 号）	14
	参考：事業区分の説明	15

2023 年度事業方針

ここ数年で CASE や MaaS 更には、カーボンニュートラルという言葉は日常的に使われるようになり、自動車を取り巻く状況は急速に変化している。特に自動運転や移動体の通信、CO₂排出量削減の実現に向けた EV 化等の技術革新は日進月歩であり、これら新しい技術に迅速に対応していかなければならない。

一方で、新型コロナウイルス感染症の完全終息は難しいと考えられ、これまでの事業体制から with CORONA 社会における事業体制への変革も迫られている。

このような新たな環境下においてもモビリティ技術の発展およびそれを支える人材の育成に貢献し、収益の安定化、会員数の増強にもつながるよう、以下の3つを重点項目と定める。

I 新たな技術領域と連携を強化し、将来モビリティ技術の創造に繋がる場とそれを担う人材を育成する場を提供する

II with CORONA 環境下においても持続発展可能となる新たな事業運営体制を構築する（実地とオンラインの有効活用等）

III 本会の認知度向上に向け、本会の特徴及び事業内容に関する広報活動を強化する

これらの事業展開に当たっては、例年以上にリソースの有効活用を意識した予算編成を行い、年度内においても本会を取り巻く環境の変化に応じて迅速な対応を随時実行する。

1. 3つの重点項目に対応した主な取り組み

① 新たな技術領域と連携を強化し、将来モビリティ技術の創造に繋がる場とそれを担う人材を育成する場を提供するために以下のような施策を展開する。

- ・将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を当てた催事（展示会、及び講演会）を開催する。
- ・自動運転 AI チャレンジや新領域講座を拡充する他、ソフトウェア領域技術マップを整備、及びスキルマップやキャリア基準策定を推進する。
- ・標準化重点新領域（MaaS、V2G、LCA、スマートシティ、通信）において、「通信領域」および「LCA 領域」に将来リスクが無いかの把握に努め、取り組むべき重点項目を検討する。
- ・技術会議と新連携創生センターの連携による新しい技術分野の委員会、及び異分野領域と連携した技術委員会の企画を推進する。

② with CORONA 環境下においても持続発展可能となる新たな事業運営体制を構築する（実地とオンラインの有効活用等）ために以下の施策を展開する。

- ・「人とくるまのテクノロジー展」の、実地開催に加えてオンライン展示会も有効活用した最適

化を推進する。

- ・春季・秋季大会の、実地開催を主体にしながらもオンライン聴講も併用した参加者のニーズに即した開催を推進する。

- ・フォーラムのオンライン開催を継続する。

③ 本会の認知度向上に向け、本会の特徴及び事業内容に関する広報活動を強化するために以下のような施策を展開する。

- ・会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進を目指し、全面リニューアルした本会サイトに、シングルサインオンでシームレスに各種情報を取得できるプラットフォームを構築する。

- ・会員に役立つ魅力あるデジタルパブリッシングのコンテンツを拡充する。

2. 予算編成の基本方針

公益法人に求められる財務3要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たすと共に、事業計画達成に向けたメリハリのある配分を実現した予算を策定する。

1 総 会

第13回定時総会を2023年5月25日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2022年度決算報告の件、名誉会員推薦の件

報告事項 2022年度事業報告の件、2023年度事業計画の件、2023年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を4回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を3回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

新連携創生センター（旧共同研究センター）では、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と新連携創生センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会

49 部門委員会と1 特設委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① 2023 年春季大会において、オーガナイズドセッションを開催する。
- ② 2023 年7 月および2024 年1 月、オンラインにてフォーラムを2 回開催する。
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により2023 年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

① EVTeC2023 実行委員会 (2023 年 5 月 22 日～24 日 パシフィコ横浜 神奈川県)

EVTeC : International Electric Vehicle Technology Conference

② P, E&L' 23 実行委員会 (2023 年 8 月 29 日～9 月 1 日 京都テルサ 京都)

P, E&L : Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting

③ FAST-zero' 23 実行委員会 (2023 年 11 月 8 日～11 日 金沢商工会議所会館 石川)

FAST-zero : International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero-traffic-accident

④ 第 34 回内燃機関シンポジウム実行委員会 (2023 年 12 月 5 日～7 日 日本教育会館 東京)

(5) 他学協会との連携

① 自動車用材料共同調査研究会 (材料部門委員会と日本鉄鋼協会)

② 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会との連携

3.2 新連携創生センター (旧共同研究センター)

(1) 委員会

下記 2 委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

① 新たなモビリティ社会に向けたイノベーションガバナンス検討委員会

② 新規事業企画検討委員会

(2) 他学協会との連携

① 新規事業企画検討委員会 (人工知能学会、電気学会、電子情報通信学会、土木学会、日本 LCA 学会)

3.3 研究調査事業

技術会議の 1 委員会が拠出型にて 2 テーマを実施する。(車室内環境技術部門委員会)

3.4 受託事業

技術会議傘下の委員会により以下を実施する。

SAE World Congress 等海外における PM 研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会/受託先：日本自動車工業会)

PM:Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第 5 条 2 号、公益目的事業 2・3・自動車技術展は収益事業)

各種催事の開催形式は実地開催を主体とし状況によりオンラインも併用することによって、幅広くより多くの方 (ステークホルダー) に参加いただける機会を提供する。

- ・ 春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。
- ・ 「人とくるまのテクノロジー展」は、横浜・名古屋に加え、それぞれに併催するオンライン開催で構成する。
- ・ 技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充

実を図る。

4.1 春季大会

2023年5月24日（水）～26日（金）にパシフィコ横浜（横浜市）にてオンライン聴講を併用し開催する。学術講演会、Keynote Address、学生ポスターセッションを実施する。

4.2 秋季大会

2023年10月11日（水）～13日（金）に名古屋国際会議場（名古屋市）にてオンライン聴講を併用し開催する。学術講演会、Technical Reviewのほか、中部支部の協力を得て市民公開特別講演を実施する。

4.3 自動車技術展

人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋展示会とそれぞれでオンライン展示会を併催する。主催者企画は共通テーマ「英知を結集しよう！カーボンニュートラル、その先の循環型社会へ」を掲げて実施する。

① 人とくるまのテクノロジー展 2023 YOKOHAMA（2023年5月24日（水）～26日（金））

パシフィコ横浜（横浜市）

「英知を集結しよう！カーボンニュートラル、その先の循環型社会へ」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。

② 人とくるまのテクノロジー展 2023 NAGOYA（2023年7月5日（水）～7日（金））

Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）

2023年より会場を移転する。「英知を集結しよう！カーボンニュートラル、その先の循環型社会へ」をテーマに、技術展示・講演会を実施する。また、新技術を搭載した車両の展示、最新車の開発秘話などについて開発チームが語る技術開発講演を実施する。中部支部企画を実施する。

③ 人とくるまのテクノロジー展 2023 オンライン STAGE 1

（2023年5月24日（水）～6月7日（水）／プレオープン：5月17日（水）～23日（火））

プレオープン開催を横浜展示会への来場者誘引に活用する。STAGE 1では横浜展示会のコンテンツを中心に配信する。

④ 人とくるまのテクノロジー展 2023 オンライン STAGE 2

（2023年7月5日（水）～7月19日（水））／プレオープン：6月28日（水）～7月4日（火））

プレオープン開催を名古屋展示会への来場者誘引に活用する。STAGE 2では名古屋展示会のコンテンツを中心に配信する。

4.4 他領域との連携を促進する催事

“くるまからモビリティへ”の技術展 2023 ONLINE を11月～12月に開催し、将来のモビリティに深く関係する新規領域の技術情報の提供、及び新領域を含めた産官学間の交流・連携を促進する場とする。企画に際して、他領域学協会との連携を図る。

4.5 フォーラム

技術会議及び新連携創生センター傘下の委員会を中心とした企画によりオンラインにて24件開催する。

会期は2023年7月12日(水)～14日(金)ならびに2024年1月17日(水)～19日(金)の2回とする。

4.6 シンポジウム・講習会

技術会議傘下の各委員会企画により25回開催する。

4.7 国際会議

専門技術分野の国際会議等を以下のとおり開催する。

- ① EVTeC2023 (2023年5月22日～24日 パシフィコ横浜 神奈川)
EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference
- ② P, E&L' 23 (2023年8月29日～9月1日 京都テルサ 京都)
P, E&L: Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting
- ③ FAST-zero' 23 (2023年11月8日～11日 金沢商工会議所会館 石川)
FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero-traffic-accident
- ④ 第34回内燃機関シンポジウム実行委員会 (2023年12月5日～7日 日本教育会館 東京)

5 学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業収支の不安定化や会員数減少を踏まえ、会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進を目指して、新たなコンテンツ・情報サービスの創出を推進する。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

(1) 会誌「自動車技術」

- ①会誌読者アンケートを継続し、その意見を参考に、検索機能の導入、レスポンスHTML化による閲覧性の向上など電子化のメリットを活かした内容・フォーマットの改善を継続して検討する。
- ②2022年に動画企画として実施した「レジェンド対談」をはじめ、多くの若手技術者が興味をもって読んでもらえる企画を検討する。
- ③「会誌立ち読み動画」の毎号配信を継続し、メールマガジンの配信を活用して会誌へのアクセスを促進する。
- ④広告会社と緊密に情報交換を行い、広告主が満足できる媒体となるための対策を検討する。

(2) 「文献情報収集」

- ①文献・情報検索システムにて、本会発行文献・SAE Paper・技報等の書誌事項・抄録情報の掲載を引き続き実施する。
- ②文献・情報検索システム上の内容拡充および普及を推進するため、各種技術情報の継続掲載を実施する。システムの機能拡充も検討し利用者の利便性向上に繋げる。
- (3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版刊行物として継続発行する。
- (4) 「日本の自動車規格」の日本語版および英語版(WEB)をWebシステムによる提供に移行する。
- (5) 第73回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー記事を会誌「自動車技術」に掲載する。

- (6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を電子版刊行物として発行する。
- (7) 「高翔」（関東支部企画・編集）、「宙舞」（中部支部企画・編集）、「関西支部ニュース」（関西支部企画・編集）を電子版刊行物として発行する。
- (8) 自動車工学図書についても電子化書籍の発行を検討し、ユーザ利便性の向上を図る。
- (9) 自動車用語多言語辞典の掲載内容拡大、オンライン編集機能の追加を継続検討する。
- (10) 自動車工学ハンドブックのレスポンス HTML による公開を検討する。また、オンライン編集機能の実装を検討する。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行

本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、英文ジャーナルでは IF（インパクトファクター）の取得を目指す。

- (1) 「自動車技術会論文集」
 - ① J-STAGE にて年 6 回発行する。
 - ② オンライン査読システムにより、投稿から掲載までの期間を短縮し、高いクオリティの論文を発信する。
- (2) 「International Journal of Automotive Engineering (IJAE) : 英文ジャーナル」
 - ① J-STAGE にて年 4 回発行する。
 - ② 学術的価値向上のため、インパクトファクター取得に向けて ESCI (Emerging Sources Citation Index) への掲載を目指す。
- (3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集及びフォーラム資料を電子版刊行物として発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行

- (1) シンポジウム及び講習会資料を電子版刊行物として発行する。
- (2) 会誌「自動車技術」において教育的記事を連載する。
- (3) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2 回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.24」を発行する。

5.4 広報関連他の発行

- (1) JSAE メールマガジン（インターネット配信）を週 1 回発行する。中部支部メールマガジン（インターネット配信）を月 1 回発行する。
- (2) 支部だより（北海道支部 1 回）、行事案内（関西支部 10 回）を発行する。

6 人材の育成（定款第 5 条 4 号、公益目的事業 3）

次世代エンジニア育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア 2023」、中高生を対象とした「次世代モビリティデザイナー人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内）」、大学生向けに「学生フォーミュラ日本大会 2023」等ものづくり教育の場を提供する。その他、大学生/大学院生の発表機会として「学生ポスターセッション」を継続実施する。また、学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。新技術分野の人材発掘、育成

のため「自動運転AI チャレンジ2023（インテグレーション）」を2023年7月～10月、「自動運転AI チャレンジ2023（シミュレーション）」を2023年12月～2024年1月にかけて開催する。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。また、自動車ソフトウェア領域の人材育成を進めるべく、ソフトウェア領域技術マップを整備し、スキルマップやキャリア基準策定を推進する。

6.1 自動車工学基礎講座

ライブやオンデマンドなどの配信形態による開催を行う。また、地域や企業団体からの要望に応じた開催も継続する。

6.2 CASE 技術基礎講座

5Gなどに代表される通信、自動運転、人工知能の活用に必要な基礎的教育の機会を提供すると共に、工学的分野において新しい知見を取り込み、CASE 技術基礎講座を充実させる。

6.3 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、9月に開催する。また、実習型の講座を引き続き開催するとともに、サイバーセキュリティ人材の発掘、育成のためのハッカソンイベントを企画開催する。

6.4 システムズエンジニアリング講座

システム思考、論理思考、自動車のコンテキスト全体に関する理解など自動車エンジニアに重要となる思考定着を企図し、システムズエンジニアリング講座を継続開催する。また、システムズエンジニアリングシンポジウムやフォーラムを開催しより広い層への理解と浸透を促進する。

6.5 みんなのモーターサイクル工学講座

モーターサイクル工学基礎講座に加え、学生や一般ユーザーならびに新入社員を対象とした技術教育を、会誌連載、書籍製作、講座講習会の3つのアウトプットにて企画推進する。

6.6 エシカル・エンジニア開発講座

先進技術開発におけるモラル、倫理問題に対する人材育成ニーズより、エシカル・エンジニア開発講座を開催する。

6.7 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：地方講演会2回、特別講演会1回、見学会1回、eモータースポーツ北海道支部大会2023 2回、市民講座5回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会4回、見学会2回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座7回、セミナー5回、親子マイコンカーラリー体験科学教室2回、フォーミュラーシュミレーター2回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会11回、見学会11回、支部社会活動として公開講座を開催する。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。また、中高生向けの活動としてエコ1チャレンジカップを企画・開催する。
- (4) 中部支部：講演会3回、研究発表会1回、見学会13回、技術講習会5回、技術交流会2回、体験型講習会1回、技術者懇談会3回を開催する。
人とくるまのテクノロジー展2023名古屋に展示イベント1回を開催する。

- (5) 関西支部 : 見学会 6 回、講演会 1 回、技術者懇談会 1 回、技術者交流会 1 回を開催する。
- (6) 九州支部 : 関西支部との合同例会 1 回、講演会 3 回、見学会 1 回、市民講座 4 回、技術者情報交換会 1 回、技術交流会 1 回を開催する。

6.8 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.9 継続能力開発 (CPD) プログラム

技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発 (CPD) を支援する。また、自動車ソフトウェア領域の人材育成を進めるべく、ソフトウェア領域技術マップを整備し、スキルマップやキャリア基準策定を推進する。

6.10 学生フォーミュラ日本大会 2023ーものづくり・デザインコンペティションー

学生フォーミュラ日本大会は、大会を通じてものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、産業の発展・振興に資する人材を育成する。2023 年大会は国内チームを優先とするが、海外チームも受け入れて国際大会として復活させる。また、安全かつ効率的な開催として、オンライン開催と現地開催のハイブリッドにて実施 (静的審査: オンライン開催、車検/動的審査: 現地開催)。現地開催 (車検/動的審査) は、2023 年 8 月 28 日 (月) ~9 月 2 日 (土) にてエコパ (小笠山総合運動公園、静岡県掛川市/袋井市) にて実施し、オンライン開催 (静的審査) は 8 月 21 日 (月) ~8 月 25 日 (金) に現地開催に先駆けて実施する。

6.11 自動運転 AI チャレンジ 2023

自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする「自動運転 AI チャレンジ」の定着化と裾野の拡大を推進する。インテグレーション大会及びシミュレーション大会の年 2 回開催とする。また、経済産業省と連携し、すそ野を広げる企画、特に学生や若手技術者からの参加者数を増やす企画を開催する。

6.12 キッズエンジニア 2023

キッズエンジニア 2023 は、自動車を中心とした様々な分野の科学技術やものづくりに興味を持ってもらう小学生を対象とした体験型学習イベントとして、以下の通り実地と YouTube (録画配信) にてハイブリッド開催する。

実地開催: 2023 年 8 月 4 日 (金) ~5 日 (土) ポートメッセなごや (名古屋市)

YouTube (録画配信): 7 月 20 日~8 月 31 日 (予定)

6.13 支部の小学生プログラム

- (1) 北海道支部: 「キッズエンジニア」を 3 回、「まちなかキャンパス 2023」、関東支部と共同開催する「くるま未来体験教室」を各 1 回開催する。
- (2) 東北支部 : クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北 2023 仙台 (第 8 回)」を 1 回、「親子マイコンカーラリー体験科学教室」2 回、小学生向けフォーミュラーシュミレーター 2 回 (会場は全てスリーエム仙台市科学館) を開催する。
- (3) 関東支部 : 「小学生くるま未来体験教室」を 7 回開催する (うち 1 回は他支部との共同開

催)

「キッズエンジニア in 東北 (第 7 回)」に出展する。

(4) 中部支部 : 「キッズ・モノづくりワンダーランド」を 9 回開催する。

(上記とは別にキッズエンジニア名古屋に出展)。

(5) 関西支部 : 「キッズエンジニア」を 2 回開催する。

(6) 九州支部 : キッズエンジニア in 九州を開催する。

6.14 学生活動企画委員会

全国 6 支部による学自研活動をはじめとする学生活動の連携の他、学生活動全体の推進を行う。大学生の発表機会として「第 5 回学生ポスターセッション」を春季大会にて、「第 6 回学生ポスターセッション」を秋季大会にて実施する。

6.15 学生安全技術デザインコンペティション (SSTDC)

2023 年 4 月に横浜で開催される世界大会へ日本代表 2 チームを派遣する。

6.16 中高生・大学生を対象とした「次世代モビリティデザイン人材育成プログラム」

中高生を対象として、創造的なモビリティデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び「第 12 回モビリティデザインコンテスト」を実施する。また、大学生の方々に世界に誇る日本の二輪デザインを知って体験してもらえる機会として、「第 11 回二輪デザイン公開講座」を実施する。(企画：技術会議デザイン部門委員会)

6.17 学生自動車研究会 (以下学自研)

(1) 北海道支部

e モータースポーツ北海道支部大会 2023 2 回、学生フォーミュラ車検講習会 2 回、学生フォーミュラ合同試走会 2 回、学生フォーミュラ日本大会 2023 に参加、学生フォーミュラ日本大会 2023 活動報告会 1 回、企業見学会 5 回開催。

(2) 東北支部

支部学自研大会 1 回、運営委員会 4 回、学自研参与会 1 回、特別講演会 1 回、見学会 1 回、第 42 回タイヤ研修会、第 33 回自動車技術独創アイデアコンテスト 1 次・2 次、第 34 回手作り自動車省燃費競技大会、第 38 回自動車整備コンテストを各 1 回開催。技術講習会 1 回、学生 EV フォーミュラ支部試走会 4 回、模擬機械車検会 1 回、模擬 EV 車検会 1 回開催。第 21 回全日本 学生フォーミュラ日本大会 2023 へ 3 チーム参加。

(3) 関東支部

支部学自研大会 1 回、支部学生委員会 12 回、支部学術研究講演会・特別講演会 1 回、見学会・講習会等を 5 回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第 21 回全日本 学生フォーミュラ日本大会 2023 に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同で 1 回、共催で 3 回開催。

(4) 中部支部

参与会 2 回、学生委員会 5 回、学術研究講演会 1 回、安全講習会 5 回、ものづくりセミナー 1 回、支部合同試走会 3 回、中部支部試走会 1 回、交流会 4 回、エンジン講習会 1 回、カート走行会 1 回開催、また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。学生フォーミュラ日本大会 2023 に参

加。

(5) 関西支部

参与会 1 回、運営委員会 4 回、講演会 4 回、工場見学会 2 回、キッズエンジニア、新車試乗技術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各 1 回開催。支部学自研ニュース発行 2 回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を 5 回開催し、講習会・勉強会計 9 回、試走会 3 回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会 1 回、研究発表会 1 回、講演会 1 回、見学会 2 回、安全運転講習会 1 回、学生フォーミュラ日本大会 2023 へ 6 校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会 5 回、溶接講習会 1 回を開催。学自研機関紙発行 1 回。

7 規格の作成及び普及（定款第 5 条 5 号、公益目的事業 1）

規格会議では、CASE、Society5.0、カーボンニュートラル化等、自動車を取り巻くグローバルな社会変革の動きを見据えた標準化活動を推進する。具体的には、自動車業界の標準化重点テーマ（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ領域等）に加え、自動車周辺における 5 つの標準化重点新領域（MaaS、V2G、LCA、スマートシティ、通信）において、まずは「通信」及び「LCA」に関して、両領域と自動車との双方のメンバーによる検討体制を整えて、将来リスクの明確化と共有を実施、対策案を策定していく。

また、関連団体と連携して自動車の国際基準調和活動（WP29）に貢献する。

7.1 自動車標準化委員会及び JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

自動車標準化委員会では、「自動車標準化 5 年計画 2023」に沿って、2025 年を超スマート社会への入り口ととらえ、従来自動車分野の効率追求と深堀する分野を定めたうえで、従来の枠組みからの転換を目指した活動を推進する。

JIS/JASO 規格審議委員会では、カーボンニュートラルに貢献する JIS/JASO の制定及び改正を推進する。また JASO を活用した日本発の国際標準化に繋げて行く。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ① TC22 及び関連 TC 国際標準化活動にエキスパートを派遣し、日本の技術を反映する。
- ② 本会が国際議長・幹事を担う TC22/SC32（電子・電装領域）及び国際議長を担う TC22/SC38（モーターサイクル・モペット）において日本の貢献を果たす。
- ③ 人財育成の観点で、規格の重要性・標準化プロセスを学ぶ ISO 研修会を開催する。
- ④ パンフレット「自動車の標準化 2023」「Road Vehicle Standardization 2023」を作成・配布するとともに標準化活動レポート（会誌掲載）等による広報活動を行う。
- ⑤ 「自動車標準化 5 年計画 2024」を策定する。
- ⑥ 「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化 戦略企画書（2023）」に基づいて、自動運転関連技術の標準化を推進する。

(2) 国内標準化活動（JIS/JASO）

- ① JASO 制定 6 件、改正 6 件、テクニカルペーパー制定 1 件、改正 1 件、JIS 改正 2 件を実施する。
- ② JIS/JASO 原案を効率的に作成するための規格原案作成講習会を開催する。

7.2 ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ITS 標準化委員会では、「ITS 分野の国際標準化戦略 5 か年計画 2023」に沿って、自動運転やコネクテッド・カーの機能を取り込んだ次世代交通システムの発展と普及に資する自動車・インフラ・ユーザーの各分野及び各分野間のインタフェースに関する規格開発を推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ① TC204 国際標準化活動にエキスパートを派遣し、日本の技術を反映する。
- ② ITS 標準化委員会・技術委員会は、本会が事務局として活動する。国内対応分科会は、本会（WG1、WG14、WG20）のほか、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS 協会（WG9、10）、道路新産業開発機構（WG5、7、18、19）、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が事務局を分担して標準化を推進する。
- ③ 本会が国際議長を担う TC204/WG14 では SAE（米国自動車技術会）や ETSI（欧州電気通信規格協会）等と連携しつつ、日本提案の作業項目の策定を推進する。さらに効率的な国際会議の運営推進のため、WG14 の組織体制改革を検討する。
- ④ 欧米における ITS 分野の政策動向に関する情報収集を行い、戦略立案に役立てる。
- ⑤ パンフレット「ITS の標準化 2023」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2023」を作成、配布するとともに標準化活動レポート（会誌掲載）等による広報活動を行う。
- ⑦ 「ITS 分野の国際標準化戦略 5 か年計画 2024」を策定する。
- ⑧ 「自動運転関連技術及びスマートモビリティ関連技術に関する国際標準化 戦略企画書（2023）」に基づいて、スマートモビリティ関連技術の標準化を推進する。
- ⑨ ITS 国際標準化フォーラムを開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第 5 条 6 号、公益目的事業 1・2・3）

従来活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本産業標準調査会（JISC）の交通・物流技術専門委員会他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に活動する。
- (4) 経済産業省と連携し、自動運転 AI チャレンジ2023（インテグレーション）を2023年7月～10月頃に、自動運転 AI チャレンジ2023（シミュレーション）を2023年12月～2024年1月頃に開催する。新たに学生や若手技術者をターゲットにしたミニ大会を開催する（2023年7月～8月頃）。
- (5) 経済産業省の第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力する。
- (6) 各国国土交通省が2年に一度主催する ESV 国際会議で開催される「学生安全技術デザインコンペティション」の国際大会（2023年4月3日～6日、横浜）へ国内大会で選考した日本代表チームを

派遣する。

- (7) NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査」のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し、活動を引き続き推進する。
- (8) 自動車技術会が幹事となり、第34回内燃機関シンポジウム（2023年12月5日～7日、東京）を日本機械学会と共催する。
- (9) 日本自動車工業会、日本自動車研究所、JASPAR、情報通信技術委員会(TTC)、産業環境管理協会(JEMAI)と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (10) 自動車基準認証国際化研究センター(JASIC)自動車運転標準化研究所において自動車分野の国際競争力を確保するため、国連法規活動と連携した国際標準化活動を推進する。
- (11) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。
- (12) 自動車制御とモデル研究部門委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (13) 自動車サイバーセキュリティ講座を、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構、日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、車載組込みシステムフォーラム、情報通信研究機構と連携して引き続き開催する。
- (14) システムズエンジニアリング育成プログラムを、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科と共催し拡充開催する。
- (15) “くるまからモビリティへ”の技術展 2023 ONLINE を開催（秋～冬期）し、将来のモビリティに深く関係する新規領域の技術情報の提供、及び新領域を含めた産官学間の交流・連携を促進する場とする。企画に際して、他領域学協会との連携を図る。

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 学生フォーミュラを通じて各国との交流促進を図る。
- (2) 中国自動車工程学会(SAE-China)の中国自動車工程学会年会、韓国自動車工学会(KSAE)の韓国自動車工学会年会などにおいて協力する。
- (3) FISITAの執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (4) APAC-22(2024年、韓国)の開催に向けて協力する。
- (5) APAC Members Meetingなどの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (6) 2023 P, E&L(2023年8月29日～9月1日、京都)をSAE Internationalと共催する。
- (7) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

P, E&L: Powertrains, Energy and Lubricants International Meeting

9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業2・3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (8) 編集・出版功績感謝状：編集委員会委員としての活動の功績が多大な個人、編集会議に係わる著作物の出版において功績が多大な個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (11) 学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状：学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献を挙げた個人の功績を称え、感謝状を贈呈する。
- (12) キッズエンジニア運営功績感謝状：キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献を挙げた個人の功績を称え、感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。
- (3) 学生ポスターセッション優秀賞：春季および秋季大会の学生ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った学生個人を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(定款第5条8号)

- 10.1 会員サービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進を目指し、リニューアルした本会サイトからシングルサインオンにてシームレスに各種情報を取得できるプラットフォームの構築を進める。

「文献・情報検索システム」については、会員に役立つ魅力あるデジタルパブリッシングのコンテンツを拡充する。

- 10.2 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い

今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。

10.3 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。

10.4 支部総会・役員会

- (1) 北海道支部 : 支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。
- (2) 東北支部 : 支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、学自研参加会1回を開催する。
- (3) 関東支部 : 支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。
- (4) 中部支部 : 支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、顧問会1回、各事業別企画委員会を開催する。
- (5) 関西支部 : 通常総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、企画と編集委員合同会議1回、開催する。会員増強のための会員・魅力拡大会議3回を開催する。
- (6) 九州支部 : 支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl. 等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業